

2017年7月16日(日)朝10:10
7月第3共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第7、大掃除等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：7つの金の鉢；第3の金の鉢:血の水

聖書:ヨハネの黙示録 16章4～7節

＜口語訳＞

新約聖書401頁

ヨハネの黙示録 16章4～7節

＜新共同訳＞

新約聖書470頁

ヨハネの黙示録 16章4～7節

＜新改訳第3版＞

新約聖書493頁

ヨハネの黙示録16章4～7節

＜塚本訳＞

新約聖書809～810頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章4～7節は、神の怒りの満ちた第3の金の鉢の注ぎと血の水による獣と礼拝者への裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章4～7節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章4～7節；ヨハネは、第3の金の鉢の注ぎと血の水による獣と獣礼拝者の裁き施行を見ます。

◇16:4～7；塚本訳◆第三金の鉢—血の水
「4 第三の天使がその鉢を河と水の源に注いだ。するとそれが血になった。

5 そして私は水の天使が(こう)言うのを聞いた、「(今)在り給う者、(昔)在り給いし者、聖なる者よ、かく審き給うた汝は義しい。

6 彼らは聖徒、預言者(を迫害してその)血を流し、(その報復として今)汝は彼らに血を飲ましめ給うたのであるから。(主よ、)それは当然である！」

7 すると私は祭壇が(これに応えて)言うのを聞いた、「然り、主なる神よ、全能者よ、汝の審判は真実にして義しい！」

と、ヨハネは、**獣礼拝者を血の水**によって**神が裁かれる幻**を見たのです。

◇4節;「**第三の天使がその鉢を河と水の源に注いだ**」結果、「**それ(河と水の源)が血になった**」のです。

⇒「**血の水源**」は、**出エジプト記7:14~19**で、モーセがエジプト王パロに対する**神の裁き**として、**ナイル川を血にした**しるしでした。

⇒「**血**」は、創世記9:4等に**しる**されている **通り**、「**命**」でしたから、「**血のあるままで肉を食べることを禁じられて**」いました。

⇒「**犠牲の動物の血**」は、「**その雄牛の血を取り、指をもって、これを祭壇の角につけ、その残りの血を祭壇の基に注ぎかけなさい**」(出エジプト記29:12)と、律法では定めて、取扱われていました。

⇒そして、年に1度、「**契約の血**」として、至聖所に持ち運ばれ、「**アロンは年に一度その角に血をつけてあがないをしなければならない。すなわち、あがないの罪祭の血をもって代々にわたり、年に一度これがために、あがないをしなければならない。これは主に最も聖な**

るものである」(出エジプト記30:10)と、規定された通り、贖罪所と呼ばれる契約の箱の上に「**犠牲の動物の血**」は、注がれたのです。

⇒ヨハネ黙示録16:3においては、「**血**」が、「**海**」に注がれ、「**死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった**」と、記録されています。

⇒「**赦しの血**」ではなく、裁きの血となっています。

⇒「**腫物**」や「**血**」自体が、裁きの原因ではなく、エジプト王パロが、モーセが仕える**神の命令**に聴き従わず、また**黙示録**では、「**獣**」が、「**龍(悪魔・サタン)**」に聴き従い、「**神**」に叛くことをしたため、「**血の海**」とし、「**獣と獣礼拝者**」を裁かれたのです。

⇒「**腫物**」による裁き同様、「**血**」による裁きも、「**神のご支配**」を否定することへの**神の裁き**なのです。

⇒「**神礼拝**」は、基本的に、「**神を愛し、神に聴き従う**」ことが、その本質の行為です。

⇒「**神の教会の交わり**」は、「**神礼拝**」を抜きにしては、何の意味も持たないのです。

- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、最初の人アダムと妻のエバに近づき、「**神のことば**」に少し加えたことばで誘惑しましたが、それは優しいことばでした。
- ⇒詐欺師が、本心を隠して、優しいことばで誘惑するのと同じで、「**龍(悪魔・サタン)**」や「**獣**」、地上や海上を支配する者らは、「**人間の心の満足**」を見抜いています。
- ⇒「**裁き**」は、**人間の心の本質**でもあるのです。
- ⇒ヨハネ黙示録16:4～7においては、「**河と水の源**」に「**神の怒りの金の鉢**」が注がれたのです。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」、「**獣**」、「**獣礼拝者**」の依存している生活の「**河と水の源**」を「**血の水**」にすることでの「**神の裁き**」、「**神の復讐**」です。
- ⇒ヨハネ黙示録6:11で、「**すると各自に白い上衣が与えられ、自分達と同じく殺されねばならぬ僕仲間と兄弟達と(が殺されて、神の定め給うたそ)の数が満つるまで、なお暫くの間休息んで(静かに待って)いるように彼らに言い聞かされた**」ことを今、**神**は実行に移され、「**河と水の源**」を打ったのです。

◇5～6節；「水の天使」が、①「(今)在り給う者、(昔)在り給いし者、聖なる者よ、かく審き給うた汝は義しい」(5)、「彼らは聖徒、預言者(を迫害してそ)の血を流し、(その報復として今)汝は彼らに血を 飲ましめ給うたのであるから。(主よ、)それは当然である！」(6)と宣告するのをヨハネは聴きました。

⇒「水の天使」の宣告は、ヨハネ黙示録の殉教者が切に求めて来た「血の報復」が、「神の義」として、行われたことを告げる神の使信なのです。

⇒「義しい・公平」、「当然である・適しい」は、神の裁きの基準で、ルカ23:41では、主とともに十字架にかけられた強盗のひとりが表明したことばであり、ヨハネ黙示録3:3:4で、サルデス教会に語られたことばでした。

⇒「龍(悪魔・サタン)」、「獣」、「獣礼拝者」には、「神の裁き」は、「裁かれて当然」ということばとなりますが、「神の裁き」が、神の基準であることを認めて、「神の御子の救い」を求める者には、「神の義」の白衣を着せられることです。

◇7節；「祭壇が(これに応じて)言う」＝「祭壇の

- 下の人々・殉教者は言う、「然り、主なる神よ、全能者よ、汝の審判は真実にして義しい」と。
- ⇒ヨハネ黙示録16:5、6は、「水の天使」の宣告でしたが、16:7は、「祭壇の下の人々・殉教者」の再度の叫びです。
- ⇒OS師は、ヨハネ黙示録7～15章と、沈黙して来た「祭壇の下の人々・殉教者」が休んでおれなくなって、叫んだと解説です。
- ⇒今の時代も、「龍(悪魔・サタン)」、「獣」、「獣礼拝者」が、地上を支配していますから、理不尽な出来事は、横行していますし、私たちも、病気や事故に遭遇すると、つぶやき、「神」はなぜ、このような試練にあわすのかと心の中で、不満を神にぶっつけています。
- ⇒詩篇78篇で、アサフは、神の民のために神がどんなに大きな恵みを注いでも、すぐ神の恵みを忘れて、神不信に陥る民の姿を告白しています。
- ⇒今日の讚美歌246番は、神の恵みの尽きないことを告白したものです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章4～7節は、神の怒りの満ちた第3の金の鉢の注ぎと血の水による獣と礼拝者への裁きです。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒14～16節では、人の子なる神の御子が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、**第5の天使、第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽**(さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、①**神礼拝に忠実**であり、②**神が創造した全ての人間が、神のみことばである聖書に聴く機会が与えられるように執成し祈ること**です。
- ⇒**黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」**です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒**神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の**聖書のみことば**を静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。

- ⇒ **黙示録15:5～16:1**では、「**天にある証の天幕の聖所**」が、「**開かれ**」、「**神の怒りの金の鉢**」が、「**7人の天使たちの手に**」渡されるのと、「**天にある証の天幕の聖所からの命令**」の声をヨハネは聴いたのです。
- ⇒ 今日の私たちは、「**神の怒り**」を「**金の鉢**」に盛らず、「**神の愛と赦しの福音**」を盛りたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:2**では、「**神の怒りの酒杯・金の鉢**」が、「**獣と獣礼拝者**」に注がれ、「**神の酷い悪性腫物**」で打たれたことが、幻で示されていました。
- ⇒ 「**神礼拝者**」は、これを警告として聴きつつも、**黙示録5:8**で示されていたように、**神に反逆を繰り返す危機の時代**であるからこそ、「**金の鉢**」には、**恵みの神への祈りのしるし**である**香**を盛って、**神の至聖所**に向かう「**神の祭司**」の任務を果たさせて頂きたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:3**「**血**」による**神の裁き**、「**血の海**」は、「**死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった**」ように、「**神なき世界・生活**」です。

⇒「10 二十四人の長老は(その座を立ち、)王座の上に坐し給う者の前に 平伏して、永遠より永遠に活き給う者を拝し、彼らの冠を玉座の前に投げ出して言う

11 われらの主なる神よ、貴神は(凡ての 創造られたものから)栄光と栄誉と権能とを受け、(また凡ての創造られたものを支配し)給うに相応しい。万物を創造り給うたのは貴神であり、万物は貴神の御意によって存在し、また創造された(のである)からである」と、告白した「天の礼拝の讚美」に与りつつ、地上にある「神の教会の礼拝、讚美」にも与って、心の本質を「裁きの心」から「神聴従、神讚美の心」へ日々造り変えていただきたいと願います。

⇒ヨハネ黙示録16:4~7では、16:2での地を支配する獣・支配権と16:3での海を支配する獣・偽預言者・偽教師への神の裁きを受けて、龍(悪魔・サタン)への神の報復が鮮明にされ、16:10~11の龍(悪魔・サタン)自体への神の裁きの準備の役割が啓示されています。

- ⇒最終的**神の裁き**は、天から排除され、地と海、すなわち、人間が生活する場で、再度、人間を誘惑して、生き延びようとする**龍(悪魔・サタン)**へ挑戦される**神の義**の宣告実現です。
- ⇒その後には、**龍(悪魔・サタン)**による「**神なき**」生活への誘惑は去り、「**神の義**」に生きることが、生きる希望となる「**神の国・義の生活**」が、「**新天新地**」として実現するのです。
- ⇒日々の**個々人の神礼拝(デボーション)**や**主日ごとの神礼拝**が無駄でなかったことが明らかにされる時でもあります。
- ⇒**マルチン・ルター**は、最後の死の床で、**詩篇 31:6**をラテン語で**繰り返し口にした**と記録されているようです(**OS著9頁**)。
- ⇒彼ほど、**龍(悪魔・サタン)**を意識した宗教改革者はいなかったのではと思うほどで、ある意味で、伝説のように語り継がれています。
- ⇒彼が復讐心ではなく、**神の言による平安**を心に抱いていたことが、**その神信仰に学ぶ者**にとっては慰めです。